

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400021		
法人名	有限会社 ユートピア・アットホーム旭川		
事業所名	グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)		
所在地	北海道深川市音江町1丁目3番13号		
自己評価作成日	令和3年12月5日	評価結果市町村受理日	令和4年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0197400021-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和4年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は郊外の閑静な住宅街の中に立地している。付近には公共施設が少なく不便なように見えるが、町内の商店を利用したり職員が代理で購入するなどして不便が無いようにしている。また医療機関への通院や緊急時の応援態勢は速やかにできる。事業所理念に基づいて、個々の利用者が暮らしてきた地域とのつながり(行きつけの店など)や役割を持つことの意義を大切にしている。行政や各居宅支援事業所からの急ぎの入居相談にもスピード感をもって対応しており、事業所としての使命を全うできるよう努めている。また、生活保護受給者も入居の対象となっていたり、料金が低めに設定されている。前時代的な「認知症の人」と一括りにするのではなく、『認知症』と『人(個人)』は分けてケアすることが大切と考える。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は深川市の郊外、音江地区の閑静な住宅地にあつて、近くには郵便局、商店、小公園があり、遠くに暑寒別岳を望むことが出来、又、高速道深川インターチェンジや国道12号線沿いの道の駅からも近い生活環境に恵まれた地にある。鉄骨3階建ての2階に2ユニットのグループホーム、1階には介護付有料老人ホームがあり、避難訓練などを連携して行って、利用者同士馴染みの関係を築いて交流している。町内会に加入し、地域の行事に参加していたが、コロナ禍により行事が中止となり、利用者は散歩時などに地域住民と挨拶を交したり、町内会長が事業所を訪問するなどして交流に努めている。会議などで使用している3階を活用し、地域に住む介護度の高い高齢者や障がい者の福祉避難所として災害時に避難支援する事で、地域との協力的体制を構築している。居間、食堂は一体的で、大きな窓からは陽が入り、ぬり絵などの利用者の作品や季節の飾つけをして家庭的な雰囲気の中で、利用者はラジオ体操やぬり絵、かるた、トランプ、カラオケなどをしたり、職員は掃除など利用者自身が出来ることは無理せず任せて、やりがいを見出すような支援をしたり、持っている能力を引き出すようなアプローチを行っており、単にケア中心ではなく、生活の充実を心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とユニット内に理念を掲示し、スタッフや来訪者の目に付くようにしている。ケアの方向性を話し合う中で理念に沿ったものか都度立ち返っている。	事業所理念を、玄関や各ユニットに掲示し、会議等で話し合っって職員で共有している。職員は理念に基づいて利用者の為に何が出来るかを考え、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため相互の訪問などは自粛しているが、余った町内会費の還元などで、町内会長の訪問がある。	町内会に加入し、地域の行事などに参加していたがコロナ禍で中止となっている。散歩時に地域住民と挨拶を交したり、町内会長が事業所を訪問するなどして交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践は自粛傾向であったが、市内で認知症関連の映画放映の手伝いをし、市民の関心を高められるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為年度内は中止とし、資料を関係者に送付して代替としている。資料内容に対して意見・質問・指摘があれば、それを活かせる様に努めている。	コロナ禍のため2か月に1回管理者、ケアマネで書面会議を実施している。関係者には会議の結果を送付し、質問や意見等があれば職員で話し合い、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空き状況を共有することで、在宅困難の方のスピーディーな入居に繋げる等協力関係を築けている。	市の担当者とは日常的に連絡を取り合い、空き状況などを報告して共有したり、地域ケア会議に参加し、コロナ関係の情報や指導、助言を得るなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の設置を行い、定期的に身体拘束の見直しや事業所内で研修を実施して理解を深めている。徘徊のある入居者の身を守るための話し合いを続けている。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回定期的に開催して、内部研修を実施するなど拘束しないケアへの理解を深めている。玄関の施錠は夜間の防犯目的で行われ、日中はチャイムで対応している。深川市のSOSネットワークにも登録し、地域との協力関係を築きながら身体拘束をしないケアを心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行い、虐待防止の意識と知識を高めることに努めている。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用には至っていないが、必要性がある入居者に対して関係者と話し合いをおこなう機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	感染対策を十分に行った上で、入居前見学してもらいサービス説明を行い、理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会は控えていただいているが、メールや電話などを活用し、家族の想いや意見・要望を伺う機会としている。	毎日の会話などから利用者の意向の把握に努め、家族等の意見は、コロナ禍で面会が出来ないため、電話や通院時(家族が同行時)に積極的に情報を提供し、意見、要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はユニット間を常に行き来して話しやすい雰囲気作りにも努めている。意見や提案があった場合は、必要に応じて実現の可能性を法人とも一緒に模索している。	管理者は話しやすい環境作りを心掛けており、日々の会話や引継ぎ時に職員からの意見を聞き、法人と協議して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の働きやすさを重視し、資格取得に向けての休日調整や労働時間の調整など正規・非正規問わず、従業員を大切にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のやる気に添えるようにシフト調整をして資格取得もしやすい環境整備に努めている。事業所内での研修も行い、学びを深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自粛傾向ではあるが、電話で各事業所の取り組みを聞き取って参考にさせてもらうなどサービス向上に努めている。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症状や生活歴などを関係者から聞き取り、安心を確保する為に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要な聞き取りを行い、一緒に解決していけるよう関係作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族と一緒にニーズや目標を立てる事で、支援の必要なところを明確にする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る所は自分でやっていただけるよう自然な声掛けを心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的に家族とは情報共有する関係を築いており、それを継続出来る様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	コロナ禍で面会では中止しているが、知人・友人とは電話を利用して馴染みの関係を継続している。月1回の理美容院の来訪や、病院帰りの買い物支援、家族との外出時の支援など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のままにせず、必要に応じてスタッフが間に入れるよう、見守りを欠かさない。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて退去後も支援やフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけご本人とコミュニケーションを取り、希望や意向を伺うようになっている。	入居時の利用者・家族からの聞き取りから利用者の生活歴を把握し、日々の会話や動作、表情、家族からの情報などから希望や意向に添うように努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に話を聞いたり、他の記録があればそれを参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由に動ける方は危険がない限り自由に過ごしてもらい、行動パターンの把握をしている。出来る事と出来ない事の確認はこまめに行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のモニタリングを行い、皆の意見をまとめてご本人の変化に対応したプランを立てている。	利用者ごとに担当職員を配置しモニタリングを行い、利用者と家族の意向を反映させて、3ヵ月毎に介護計画を作成し家族への説明と同意印を得ている。利用者の状況に変化があれば、その都度現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時や、その日の勤務者で何かあったら伝え合い、連絡ノート等を書いて周知・共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内での面会を控えている為、通院日を家族に伝え都合が合えば来てもらい、面会の機会確保に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の商店に嗜好品などを注文して届けてもらい、途切れないサービスを提供できるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なるべく個々のかかりつけ医に継続してかかるようし、地域の医療機関とは良好な関係を築けるよう努めている。	利用者、家族の意向に沿ったかかりつけ医を受診できるよう支援している。職員が同行(予約日が決まっている場合は家族も同行)し、結果は電話又はメールで家族に報告している。	

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員としての配置はないが、症状に併せて各医療機関との連携は出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な引継ぎは書面や口頭で伝えている。また、適切な治療が受けられるように、個々の行動障害への対応も併せて伝えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に終末期ケアは行っていない旨を伝えて理解を得ている。また、重度化への対応は一定の基準をもうけているが、家族の希望も尊重しながら柔軟に対応している。	入所前に事業所で可能な範囲を説明し、利用者や家族の同意を得ている。重度化した場合は家族の意向を聞きながら事業所で出来る支援を行うが、医療行為の発生や食事の摂取が困難になった場合は、家族や主治医と相談し、入院など希望に添うよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	起こりえる状況を想定して、適切な対応がとれるように職員間で情報共有に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っているが、感染症防止の観点から本年度は地域への声掛けを控えている。状況が落ち着いてきたら、改めて地域との協力体制を築けるように努めていく。	年2回(日中想定・夜間想定各1回)1階の介護付き有料老人ホームと合同で実施している。市との「災害発生時における福祉避難所設置運営に関する協定」に基づき、災害時には地域に住む介護度の高い高齢者や障がい者の避難場所として受け入れるなど、地域との協力体制を構築している。食料、水、ガスコンロ、懐中電灯などを備蓄している。	食料等を備蓄しているが、冬季の停電に備え、ポータブル石油ストーブなど暖房用品の備蓄を期待する。又、備蓄品については備蓄品リストを作成し管理することが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	“認知症の人”ではなく【認知症】と【人】は別であると認識し、その上で日々のケアに努めている。	本人の気持ちを大切に、プライバシーにも配慮したトイレへの声掛けや、名字呼びを心掛け、一人ひとりの尊厳を損なわないよう努めている。個人情報管理も適切に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単な選択を日々していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースで生活を送ってもらえるよう努めている。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服にならないように工夫しているが、自分で選ぶ利用者様は同じものを選びがち。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	活躍できる場面を作り無意識の安心感や力を発揮できるように努めている。	献立は法人本部で決めて、食材も委託した業者から届けられる。誕生日、ひな祭りやクリスマスなどの行事には、特別な献立や利用者の希望に合わせた食材に変更するなど食事を楽しめる工夫をしている。利用者は能力に合わせて職員と一緒に盛り付け、片付けなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほぼ出来ている。嗜好に合わせてたり記録を取ったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている。一人一人に合った介入で口腔清潔を支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを調べ、なるべくトイレでの排泄が成功するよう支援している。起立困難な利用者様には二人介助をしている。	排泄パターンを記録して、表情や態度に気をつけながらさりげなく声かけてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な水分摂取を促し、最小限の薬なども使用しながら便秘予防に取り組んでいる。“どこですか”ではなく“出すこと”が大切と考えケアに努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入れるようにしている。可能な範囲で同姓介助等の個々の希望に沿えるように努めている。	週2回の入浴を基本とし、希望に応じて毎日入浴を楽しむこともできる。入浴剤を使用し、会話をしながら同性介助や複数介助など利用者に合わせて、入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠の時間や起床時間は自由にしている。生活習慣は尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専用ファイルに内服説明書を保管し、常に確認できるようにしている。また、誤薬などの事故が起こらないように何重ものチェック体制を整えている。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域商店を活用して嗜好品の提供や行きつけの理髪店の利用、家事への参加など張り合いのある生活になるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ではあるが、必要に応じて個別対応を行っている。	コロナ禍のため外出の機会が少なくなっているが、天気の良い日には散歩をしたり、ベンチでの日光浴、通院時に買物や家族との外出も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者だが、金銭の所持と使用をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて支援出来ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活音の中でも不快に感じる音があり、事前に声掛けをするなど工夫をしている。	居間、食堂は一体的で、大きな窓からは陽が入り、窓から見える広大な景色から季節の移り変わりを感じることが出来る。明るい室内は温度、湿度、音が配慮されゆったりと過ごせるようにソファが配置され、ぬり絵などの利用者の作品や季節の飾りつけをして家庭的な雰囲気の中で、利用者は会話やぬり絵、かるた、トランプ、カラオケなどをしながら居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他者からの視線を遮る空間を作り、テレビやソファを設置して思いおもいに過ごしてもらえるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物や置物等を持ち込んでもらい、自宅の雰囲気近づけるよう利用者様やご家族と相談している。	蓄熱式暖房機、洗面台が備え付けられ、利用者は使い慣れた家具や電化製品、仏壇など好みのものを持ち込み、家族の写真、ぬり絵などを飾って、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて声掛けや誘導している。		